

“はらはちぶんめ” No. 70

2011/11/9(水) 発行・文責 理事長 長坂徳久

※「はらはちぶんめ」は、おおらかに、ゆとりを持ってのびのびといこうよ、という願いからつけています。

【わざとつくるタイムラグ】

タイムラグ(時間差)をわざとつくることがあります。

たとえば、一気に「今から自由！」と言えば、子ども達は我先にと自分の遊びたいおもちゃに群がります。そして、取り合いになり、いざこざの元になります。

そんなとき、意図的にタイムラグを生じさせます。

また、「靴を直してきなさい」とだけ指示をしても同じです。全員が一斉に動いてしまいます。この場合は、取り合いのいざこざは起こりませんが、限られたスペースで30名が一斉に動くこと混雑します。その混雑が必要のない、いざこざを生じさせます。さらに、一斉に一か所に動くことで、ぶつかったり、こけたりという危険を伴う場合もあります。

だから、指導員はあえてタイムラグをつくっています。

たとえば、大谷指導員などは、そのときにより、

「姿勢のいい子から自由にします。」とか、「下の名前に「あ」のつく人行ってください。」などと指導技術を使っています。

長坂の場合は、「長坂クイズ」を行います。その場を楽しみ、かつタイムラグを作らせるためです。

クイズを出して、答えられた人から「自由遊び」とか「DVDの場所をとる」などとします。最初に、次のように言います。

「手のあげかたのいい人。返事が大きい人を当てます。はい、はいいう人は当てません。」(これを言っておかないと、「なんで当ててくれないの?!」という文句がでる可能性があります。)

だから、「長坂クイズ」の時、子ども達は「はい!」と大きな声で、天井に突き刺さらんばかりの挙手をします。

さて、長坂クイズは、難しいのでござる。
なぜならば、わざと場が面白くなるようにやっているからでござる。
でも、全員が手を挙げられるような問題ばかりでござる。
(以上、ござる調終わり。)

こんな感じ。

長坂「今日は、11月7日ですが、明日は・・・」

子 「はい!」「はい!」「はい!」

長坂「直登くんどうぞ!」

直登「8日!」

長坂「ですが・・・。では、その次の日は何曜日でしょう?!」

奈菜「水曜日です。」

長坂「正解! なおとくん、問題は最後まで聞かないとね～(笑)」



長坂「バスに2人乗っています。

次のバス停で1人乗ってきました。次のバス停でまた1人乗ってきました。

その次のバス停で1人降りました。次のバス停で3人乗ってきました。

その次のバス停で2人乗ってきました。

(必死で計算している子ども達・・・健気)

さて、・・・・・・・・バス停はいくつ通ったでしょう?」

子ども達「えっ・・・?」

子ども達「そっちかよ～」



ときには、○×クイズでやります。ある程度固まりで動かさせたいときです。

問題「長坂は、昨日、夜12時までドリーム会館で仕事をしていた。○か? ×か?」

答え「×。夜3時まで仕事をしていました。」

問題「長坂は、昨日、ハンバーグを食べた。 ○か? ×か?」

答え「○」

問題「長坂は、昨日、朝5時に寝た。○か? ×か?」

答え「○」

といった具合でござる。(あっ、ござるは終わってたんや・・・)

